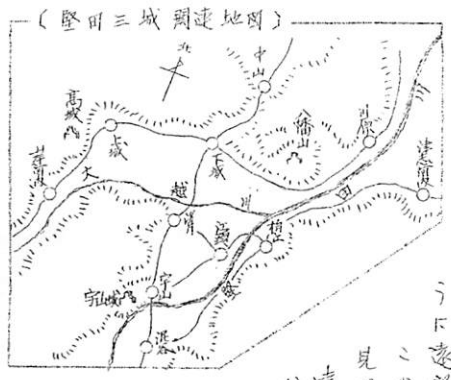


研究

堅田の古城
宇山 城

会友 山 田 善 市



私は一昨年、佐伯氏の古城である城八幡一帯を調査して、中世の古城として典型的な立派な城づくりであることが判明した。(佐伯氏家系書「中世城下城八幡山」昭和十一年六月)

堅田にはもう一つ中世の古城がある。名づけて鶴山城(宇山城)と云う。一日餘暇をみてその調査をして見た。

佐伯氏の本城と高城とすれば、城八幡はその左腕であり、鶴山城は右腕に相当する重要な城である。従って城八幡は劣らぬ堅固な構えをしているにちがいないと思つて、左が正にその通りであつた。

この城山は岩河内、越の山塊から、東北に長く突出した最高約五〇メートルの丘陵で、縦走すれば長さ四〇〇メートル、山の腰が切れ方程に低く、孤立した山のよう

うに遠望される。

この小さな山城の東面は平野を見下して拍江港を正面に、更に遠く大江灘、佐伯湾を見れば、城八幡に対して、西面は自然の凹地によつて岩河内越の山に、つづいて、東に北面は昔は泥であつたといふ沼田を隔てて上の台、上の屋敷の台地に對し、南面は麓を曲折して流るる堅田川あり、泥

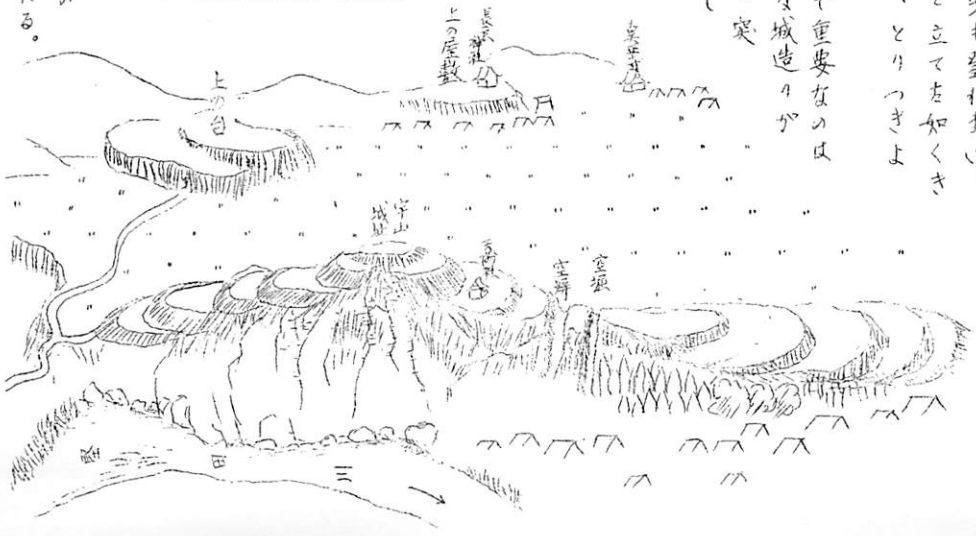
谷平野を見下して西野、石打と那望と北、遠く近く重疊として続く青山連山は雲々彼方に消える。

こうした攻防に有利な条件を備えた上、更に城山そのものが天然の要害でもある。北西と南面の急斜面は、武装した武士は一步も登れまい。

特に南面は屏風を立て左如き何十丈の絶壁で、とりつきようもない。

その上この城で重要なのは人工的な造り込み城造りがある。先づ東北の突出した丘を攻撃するには四ヶ所、切落しがあり、その高さ二メートル乃至四メートル、半円型に段々島のようにつらな身がけられ、こけの上には先づ馬の背となつて中数メートルの廣となり、ここに八メートルおききに二ヶ所の空堀の跡が見られる。

鶴山城見取圖



この付近進むに方なく退くに退けずと云つ古難所、それを通過すれば昔は一段の切落したつたが、今も百段の石の底場に立派な天満宮の社があり、ここは所謂二の丸に相当すると云ふのである。二の丸は本丸の次に重要な曲輪で、本丸の出入口に当り、本丸を守備する最後の拠点となる。二の丸陥落は実質的には落城といふことにもなる。これからは昔は急傾斜七、八メートルの坂と登ると、萬々三、四メートルに極落して作つた大走りが、くるとはち巻型に本丸を取巻いている。

頂上の本丸址は、南北九メートル東西十五メートル、思つたより小さいが城の中心として戦闘には司令部となる。従つて展望性が重視される。ここに立てば左しかに展望はきく。城の裏下、四方、見えないところはない。御大将が陣をとれば、居ながらにして周囲へ戦況は手にとる如く、采配を振るには絶好の場所と云える。

それより峯つたいに下山することになるが、立が所の段々とした切落しを通つて下る。四つ目の平地付近と城の越と云う。このあたり盆踊で有名な「お高半蔵」心中の場所として、地蔵様が祀られていたが今日ない。左ふく頂上にある石地蔵がそれであらうか。

下山すれば一本道で、一列縦隊でなければ通れないよゝなせまい兎道である。この道は二百数十メートルで上の台へとつづく。

上の台は豪族佐伯氏一族の居館のあつた跡であると思われ。館城とも云い、普通丘を利用して空堀等で区切り、周囲に塼を設けて敵を防ぐことが出来るが、大戦争となれば近くの山城によつて、戦つた。この鶴山城は、麓に居館をもつ中世の典型的な城造りであつたと云える。この要害堅固な鶴山城も、遠望すれば小さな一個の山

塊にすぎない。かつて昔、大内氏が東攻した時川原沖からこの城を見て、「この小城なら朝めし前」とはかばかして、一気に押しつぶさうとかつたのが大敗のもとに有つたを考へられる。

又、天正十四年十一月鳥津氏の大軍と堅田合戦の時、第三津の大將佐伯進士統幸は、この鶴山城の本丸より戦況を見て、敵の逃ぐるを追つて長池口へ進撃したといふ二度の戦歴をもつてゐる。

〔研究〕

御年貢の上納 (二)

赤木村大庄屋文書の周辺 (その二)

会員 羽 柴 弘

「五風十雨」(五日に一度風が吹き、十日に一度雨が降る)の言葉のように、風雨その時を得てこそ農作は好結果ともたらすものであるが、お天道様は必ずしも百姓の都合のよいように照つてくれない。前号のように麦秋も長雨も困るが、水がなくてはお叶わない稲作の場合、適量の降雨がなくて、いわゆる旱魃(かんばつ)が打ちつづくとは大変である。当前は水路さえあればすぐに河川や掘井戸からポンプアップで解決するが、昔は全く逆置なしてあつた。

田植が出来ない。苦勞して水を汲んで田植にしても、カンカン照りがまよりの十日もつづけば、田は一面に白く干上がり稲付けたばかりの稲は葉を巻き、やがて赤く枯れてしまふ。

そこで村々では龍王山に参つて雨乞いをする。藩方方